

令和4年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「海外大学に一番近い府立高校」として、校訓である「自主自律」「和親協力」のマインドを持ち、グローバルな視点で、高い志をはぐくみ、主体的に生きよ
うとする「人生の物語を編める生徒」を育てる、生徒・教職員がともにチャレンジする学校

- (1) 幅広い知識と教養を身につけ、高い志で自らの将来を切り拓く力
- (2) グローバルな視野で、異なる文化・価値観を持った人々を理解し、協働する力
- (3) 現代の諸課題に向き合い、協働で最適解を求め、自ら考え、判断し、行動する力
- (4) 「自主自律」「和親協力」の心をはぐくみ、他者や身近な社会・世界のために、自らの強みを主体的に発揮し、社会的貢献ができる力

2 中期的目標

1 確かな学力と高い志をはぐくみ、すべての生徒の第一志望進路の実現を図る

(1) グローバル科・普通科併設校の特色及び実績を活かして、生徒の学習意欲の更なる向上を図り、確かな学力を育成する。

- ア 学校での学びと家庭学習を効果的に結びつけ、高校生として必要な基礎学力の定着をはかる。
- イ 総合的な探究の時間を中心に学習活動全般で、社会人として通用する基礎的・汎用的能力の土台作りを行う。
- ウ 生徒の学習指導評価（学校教育自己診断・設問7～11）における肯定的評価を令和6年度には92%以上とする。（R1:79%, R2:85%, R3:88%）
- エ 3年間を見通した学習指導及び進路指導計画を活用する。

(2) 「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」を重視した授業改善に取り組むとともに、希望する進路を切り拓く学力を育成する。

- ア 生徒による授業アンケート結果等の活用。授業の「めあて」の提示・「生徒の学習活動」・「振り返り」を全教科で実践し、AL型・PBL型の授業力向上を図る。
- イ 学力生活実態調査・基礎学力調査等を分析・活用し、生徒の希望する進路実現に相応しい学力養成に努める。
- ウ 国公立大学への進学実績を伸ばす。国公立大学合格者をR6年度には80名以上とする。（R1:58名, R2:55名, R3:63名）
- エ 海外大学進学説明会・交流会をより充実させ、国内外の関係機関との連携を深めて海外大学への進学をめざす生徒を支援する。
- オ 進路・学習状況を保護者に適切に提供する。
- ※ 3年生4月当初の希望する進路の実現達成率をR6年度には85%以上にする。（R3:52%）[R3年度新規]
- ※ 海外大学進学希望者に対する合格者の合格率をR6年度には80%以上とする。（R1:50%, R2:75%, R3:80%）

2 あらゆる教育活動で「21世紀型スキル」発現の機会をつくり、生徒の主体性・資質・能力を育成する

(1) 学校における教育活動のあらゆる場面で、生徒の言語活動の充実を図る。

- ア 4技能を英語授業に毎時間組み込んだ授業展開と更なる英語教育の充実を図り、卓越した英語力をはぐくむ。
「骨太の英語力養成事業」の成果を踏まえ、バランス良い4技能の修得、英語でのプレゼンテーションやディベートを中心に英語教育の更なる深化を図る。
- イ CEFRを外部評価基準とし、英語学力調査をグローバル科及び普通科全体で継続し学力を伸ばさせる。
- ※ R6年度にはグローバル科2年生のCEFR B1以上:70%以上、B2以上:12%以上とする。（R1:B1 35%/ B2 0%, R2:B1 30%/ B2 3%, R3:B1 62%/ B2 6%）
R6年度には普通科2年生のCEFR A2以上:100%、B1以上:35%以上とする。（R1:A2 96%/ B1 7%, R2:A2 97%/ B1 7%, R3:A2 67%/ B1 27%）

(2) 教科教育・教科外教育活動のあらゆる場面で、デザイン思考ができる生徒を育成する。

- ア 「総合的な探究の時間」において、協働で探究のプロセスを繰り返し設定することで、生徒一人ひとりがSDGsの視点も踏まえ、課題に関連し自己の在り方生き方を真剣に考える学習活動を展開し、各教科等で身に付けた資質・能力等を活用し、主体的・対話的で深い学びの実現につなげる。「探究学習」の成果を広く全国に発信する。
- イ ロジカルシンキング・クリティカルシンキングを学び、そのスキルを習得できるよう「総合的な探究の時間」を中心に実践を広げ、通常授業へ順次導入していく。
- ※ R4年度 学校経営推進費活用による「クリエイティブな環境でデザイン思考を育成する」プロジェクトの推進
- ウ 海外研修や修学旅行についても、事前事後学習も含む全過程を通じてデザイン思考成果発表へとつなげる。
- エ 1人1台端末の導入に向けてICTを活用した取組みを組織的に推進する。
- オ 「3つのポリシー」「関連単元配列表」を有効活用し、更なるカリキュラムマネジメントの充実と新教育課程編成をめざし、教科の枠を超えた学びを実践する。

(3) 多様性への理解・共感力をはぐくむ。

- ア 大阪大学・立命館大学いばらきキャンパス他の留学生との交流会を企画・立案・実施し、異なる文化・価値観への共感力と英語コミュニケーション能力の向上を図る。
- イ 夏期海外研修、海外大学説明会・交流会、スタディツアーなどで英語教育や国際化教育の機会を充実させる。

3 「自主自律」「和親協力」の心をはぐくみ、豊かな人間性を涵養する学校づくり

(1) 教育相談、保健教育、人権教育をさらに推進し、安全で安心な学びに向かう環境づくりを推進・充実させる。

- ア 教員とSCの協力のもと、全教職員で教育相談を充実させ、生徒が相談しやすい環境づくりを促進する。
- イ いじめを根絶すべき重要課題と認識し、未然防止、早期発見、組織的対応に取り組む。
- ウ 災害や事故に備えてマニュアル整備や情報提供システムを整備し、実行性のある自然災害等に備えた体制を確立する。
- エ 食物アレルギー対応委員会を中心に、校内研修等を通じて、食物アレルギー等に係る事故防止に努める。
- オ 新型コロナウイルス感染症に関しては「子どもの安心・安全の確保」「学びの保障」「人権尊重の教育の推進」「教職員の負担軽減」の4観点を踏まえ長期的な対応に努める。
- ※ 学校教育自己診断における「教育相談」（生徒）の「肯定的評価」をR6年度には75%以上とする。（R1:65%, R2:64%, R3:68%）、「いじめ対応」（生徒）の「肯定的評価」をR6年度には92%以上とする。（R1:83%, R2:85%, R3:89%）、「災害時の情報提供」（生徒）の「肯定的評価」をR6年度には70%以上とする。（R1:57%, R2:64%, R3:56%）

(2) 生徒主体の部活動・行事の運営と学習との両立を進める。

- ア 基礎的な生活習慣の定着を進める。
- イ 生徒会を中心とした、自主的な活動を推進する。
- ウ 「大阪府部活動の在り方に関する方針」に沿い、生徒の自主活動や部活動と教職員の働き方とのより良いバランスを実現する。
- ※ 学校教育自己診断における「生徒会を中心とした自主的な活動が活発である」（生徒）の「肯定的評価」をR6年度には92%以上とする。（R1:81%, R2:81%, R3:91%）

(3) 地域との連携を推進し様々な機会を通じて情報発信と協働を行う。

- ア 生徒会や部活動を中心に地域のイベント、清掃活動、ボランティア活動等に参加し、地域への協力を進める。
- イ HP等の電子媒体、リーフレット等の紙媒体及び学校説明会等広報活動を通じて、情報発信の更なる充実を努め、本校への理解の向上を図る。
- ※ 本校学校説明会・見学会のべ参加者をR6年度には3500名以上とする。（R1:2237名, R2:1900名, R3:3156名）

4 教職員の資質向上と学校の組織力向上に向けた取組み

(1) 教科会議・研修の充実・相互授業見学の充実・経験年数の少ない教員研修の充実、個々の教職員の経験年数や適性に応じた役割分担による学校組織力の向上を図る。

(2) 「働き方改革」を推進し、教職員の安全及び健康の確保、職場環境の改善を図る。

- ※ ストレスチェックによる「健康総合リスク」の値を、府立学校平均以下を継続する。（R1:94, R2:92, R3:88）

(3) 開かれた学校づくりを推進し、生徒・保護者に信頼され、地域中学生に憧れられる学校をめざす。

- ア 個人情報の適正管理・学校会計事務の適正化に努める。
- イ 学校説明会・見学会の積極的実施及び本校ホームページを活用した最新の学校情報の発信に努める。
- ウ 地域と連携した事業の展開を図り、地域とともに成長する学校をめざす。
- ※ HP更新回数の100回以上の継続及び学校教育自己診断における「教育情報の提供」（保護者）の「肯定的評価」をR6年度には92%以上とする。（R1:83%, R2:86%, R3:62%）
HPのアクセス数をR6年度には90,000以上とする。（R1:8,190, R2:16,546, R3:110,274）

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和4年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>学校教育自己診断に関するアンケート調査結果について</p> <p>「学校教育自己診断」を12月に実施し、482名(48.64%)の保護者の皆さまから回答をいただきました。生徒実施分816名(82.3%)とあわせて結果とそのまとめを報告します。生徒・保護者・教職員の肯定的評価が up した項目数と down した項目数は、生徒1年生 up9/down21、生徒2年生 up9/down21、生徒3年生 up10/down20、保護者1年生 up28/down2、保護者2年生 up26/down4、保護者3年生 up19/down11、教職員 up13/down17 となり、令和4年度の学校教育自己診断において、多くの項目で肯定的水準は高いものの、学校に対する評価は、保護者及び教職員は例年並み、生徒に関しては課題のある内容であったと捉えています。</p> <p>(生徒による評価)</p> <p>1年生における全般的な内容については、「担任の先生以外にも保健室や相談室等で、相談することができる先生方がいる」(66.2%→73.5%) 7.3% up しました。その一方で、「先生方は、生徒の意見を聞いてくれる」(92.1.%→81.2%) と評価を下げました。8割以上の生徒は肯定的であり、決して低い評価ではありませんが、教員の業務改善を図りながら、生徒と対話できる時間を確保できるよう工夫します。</p> <p>2年生では、「箕面高校に行くのが楽しい」(90.5%→94.4%) up しましたが、「命の大切さや社会のルール等について学ぶ機会がある」(90.5%→77.2%) に down しました。人権に関する取り組みを再度練り直し、系統的に人権推進教育を進めます。</p> <p>3年生においては、「担任の先生以外にも保健室や相談室等で、相談することができる先生方がいる」(63.5%→70.8%) 7.3% up しましたが、「人権について 学ぶ機会がある」(92.5%→82.9%) と down しました。カリキュラムマネジメントの視点で、ホームルーム活動や教科等においても、人権に関する学びを深めることができるよう教育課程を検討します。</p> <p>(保護者による評価)</p> <p>1年生保護者において、「進路指導面で、学校は家庭への連絡や意思疎通を、きめ細かく行なっている」(48.5%→64.9%) と 16.4% up しましたが、「英語教育が充実している」(87.2%→85.1%) と down しました。グラデュエーションポリシーを踏まえ、教科として、より魅力のある授業ができるよう改善を継続します。</p> <p>2年生保護者では、「箕面高校のPTA活動は積極的に行われている」(37.9%→56.9%) と 19% up しましたが、生徒による評価と同様に「箕面高校は、子どもに生命を大切にす心や社会ルールを守る態度を育てようとしている」(62.1%→59.5%) と down しました。教育活動を見直し、保護者にも学校の取り組みを周知できるよう、その内容と伝達方法を工夫します。</p> <p>3年生保護者では、「学習の内容や進度等を、懇談や通信などによって知ることができる」(51.5%→61.7%) と up しましたが、「箕面高校のホームページを見ている」(73.0%→65.2%) は down しました。学校情報の共有等については、検討の余地があると考えています。</p> <p>(教職員による評価)</p> <p>31項目中、肯定値は15項目あり、「評価の在り方について話し合う機会がある。」(78.8%→91.3%) 肯定的評価が10%以上 up、加えて「箕面高校の教育活動について、教職員で日常的に話し合っている。」(81.1%→91.3%) 9.5% up しました。引き続き同僚性を高めながら、適切に生徒をサポートできる元気な教職員集団による学校づくりに励んで参ります。他方、「生徒一人ひとりが興味・関心、適性に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい指導を行っている」(84.8%→73.9%) と 10.9% down しました。教員の業務改善に取り組みながら、生徒と語り合う時間をさらに確保できるよう改善に取り組みたいと考えます。引き続きまして、ご理解とご協力をいただきますよう、よろしくお申しあげます。</p>	<p>【令和4年第1回学校運営協議会より 令和4年7月8日(金)実施】</p> <p>○ 前回の協議会以降、保護者からの意見書の提出はなかったことを報告させていただく。</p> <p>令和4年度学校経営計画について</p> <p>○ 令和3年度の第3回学校運営協議会で、めざす学校像と中期的な目標について了承を得させていただいたものと概ね同じである。</p> <p>○ めざす学校像(1)～(4)は、全て資質・能力ベースで表記している。箕面高校はどんな生徒を育ててきたか、特に印象に残る生徒像を取り上げ全体で共有する研修を受け、箕高に入学してきた生徒たちが、教科教育活動・教科外教育活動の両輪で学んで来たものを経て卒業時にどんな資質・能力を兼ね備えて欲しいかということを経年協議してきた。今年度策定を求められているスクールポリシーに反映させていく予定である。</p> <p>○ 海外大学に一番近い府立学校としてチャレンジする学校が、ここ数年経っても揺るぎない本校の立ち位置及びスピリッツであるため、これをスクールミッションにしようと考えている。</p> <p>○ 授業改善とカリキュラムマネジメントは重要である。</p> <p>○ 「総合的な探究の時間」LINKやLETS(国際関係学科)合同発表会等を活用し、生徒一人ひとりが強みを発見できる場を設定していきたい。</p> <p>☆ 意見・質問等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中期的目標の(2)にあるものが大事である。この部分(21世紀スキル)をどのように授業に落とし込むのか課題である。またこの21世紀型スキルとあるが、自分を信頼する力、これをいかに育てていくかが課題である。 ・生徒の自主性を尊重しつつ、うまく伸ばしていくことを楽しみにしている。 ・授業改善していくには、保護者・生徒の意識を変えないといけない。改善をしていくことは、ゴールが見えてもその過程をどう作っていくのかということが大切。 ・めざす学校像というものを、もっと継続・持続的に伝えて欲しい。 ・理想の育て方であり、本当に実践して頂けたらと楽しみにしている。 <p>令和4年度使用教科用図書の選定状況について</p> <p>○ 選定理由書のとおり、5つの観点から適正に選定されていることを報告させて頂く。</p> <p>☆ 意見・質問等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特記事項なし <p>令和4年度の進路実績について</p> <p>☆ 意見・質問等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナで入試状況がどこか変わったという感じはあったか。 <p>⇒やはり遠くへの移動を避ける傾向があり、近くで安全に合格を早期に出したいという傾向が強いと感じる。しかし、海外大学進学を一つの選択肢と考える校風が箕高にはあるので、それがまだ突破口になるのではないかと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高3からいきなり海外の大学といった場合は、保護者が二の足を踏むということはないのか。 <p>⇒学費や治安が理由で二の足を踏むことがある。奨学金をどれだけ確保できるかは海外大学進学における1つの大きな要因である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近畿圏内の大学ではなく、近畿圏外の大学に進学しようとする生徒はいないのか。 <p>⇒国公立後期試験に挑戦する生徒も徐々に増え始めている。</p> <p>質疑応答及び協議・助言</p> <p>○ 箕面市中学校との中高連携、あるいは箕面市とのつながり等、コロナでやりたいことがやれなかったため、どんどんやっていきたい。</p> <p>⇒ぜひ中高連携はやりたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新課程における苦勞している点は何か。 <p>⇒主体性の評価に苦勞しているが、昨年度より観点別学習状況の評価に関して複数回研修を行っている。また、8月29日に京都大学の特任教授を招聘し、具体的な事例について学ぶ予定である。</p> <p>【令和4年第2回学校運営協議会より 令和4年11月18日(金)実施】</p> <p>○ 前回の協議会以降、保護者からの意見書の提出はなかったことを報告させていただく。</p> <p>授業見学</p> <p>数学B(2年生)、数学I(1年)、地学基礎(2年)</p> <p>※1人1台端末の活用を中心に創意工夫をした授業を見学。</p> <p>令和4年度学校経営計画進捗状況</p> <p>○ 重点課題は順調に執り行われている。第3回の協議会で自己評価を提示する。取り組みの進捗状況については11月発行の「府立学校メールマガジン」に取りまとめたので、これをもとに説明する。</p> <p>☆ 意見・質問等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロジカルに組み立てられており、非常に理解しやすいものである。 ・基礎がしっかりとされており、素晴らしい。 <p>令和5年度スクールミッション(案)について</p> <p>○ ここでこの案が承認されたので、教育庁に提出することとする。</p> <p>○ カリキュラムポリシーを考えるなかで、箕面高校独自のサブジェクトポリシーも作成している。教科で卒業時までどんな力をつけさせるのか、ということを経年協議で話し合い落としこんだもの。</p>

府立箕面高等学校

- スクールミッションに関しては、学校経営計画のめざす学校像が、普遍的な箕面高校のアイデンティティ、箕面高校の依って立つコンセプトということになる。
- グラデーションポリシーに関しては、3年間議論し温めてきたディプロマポリシーをそのまま当てはめる。
- 学習指導室で、様々な素案を練って先生方に降ろし、また様々な意見を聞いて学習指導室で練り直し、そしてまた先生方に、ということをして、3年間かけて繰り返しながらお落とし込めたということになる。

☆ 意見・質問等

- ・カリキュラムマネジメントができてきている状況がうかがえる。
- ・これがどこまでこう実践されて成果的にどういうふう実践されて可視化ができるか、どういうところまで進捗ができてどういう成果が得られたのかということはずごく興味がある。このミッションが実際にどのように実現されていくのか、次の1年間拝見したい。

質疑応答及び協議・助言

- ・一般論として、第1志望に合格できる、夢を叶えられること、なかなかそこに至らないときに実戦力と持続力が弱いことがちょっと浮き彫りになってきているようだ。
- ・今日の授業が全てではないってことも分かりながら、反転授業がどれぐらいなのかなど思った。今日みたいな授業があつて、お互いが刺激できたりと、あとは4人の中でこう役割分担みたいなのがあつて、この子リーダーでこの子は多分ある程度こう傍観者かなというような役割分担のようなものができていて、それが学校生活の中で、これ部活の中でもまた違う能力を発揮したりとか、そういう繋がりがあるのだろうなというふうには感じた。持続力はおそらくあの場ではなかなか生まれまいだろうなと、気づきがあった。今、1番重要なところで持って帰ってどうするかというところがどうなんだろうなというところは改めて感じた。
- ・私立中学校で（府立高校で使っている種類のタブレットではなかったが）、子どもの教育活動を親も見られるようにされていたので、タブレットをツールに、親も学校に興味を持って、子どもの後押しができるような活用方法も考えていただけたらと思う。
- ・保護者に対する説明責任、保護者に語りかけるものが必要だということ。

【令和4年第3回学校運営協議会より 令和5年2月10日（金）】

○前回の協議会以降、保護者からの意見書の提出はなかったことを報告させていただく。

令和4年度学校教育自己診断結果について

- 教員の自己診断では「ホームページ（以下、HP）が活用されている」が100%だが、生徒・保護者の値は低い。HP以外で保護者連絡をしているのか。
- ⇒昨年のHPアクセス数は約10万件だったが、今年は約16万件に増加した。中でも教員が発信している部活動や学校説明会等のページは、中学校3年生を中心に閲覧されていると思う。逆に本校の保護者が閲覧するのは緊急連絡（休校や翌日の交通機関に関する連絡等）であるが、これは保護者メール（箕高メール）でも配信しているため、低い値になったと認識している。
- HPが大きく変更され、大学受験を考えている保護者向けの情報はありがたく、使いやすい。しかし、生徒はHPではなく、直接学級で話ができることも影響しているのではないかと。
- ⇒今年度からSNSの公式アカウントを立ち上げた。本校生は、SNSの方を閲覧している。
- 生徒10「評価の仕方や基準について、事前に示されている。」の肯定的評価96%であり、これが子ども達の安心感に繋がっていると思われる。現1年生から評価の仕方が変わるが、そのことで生徒・教員間で認識の齟齬は起こっていないか。
- ⇒3観点の評価に関しては事前の説明を前提に大きな混乱はないと認識している。
- 31「箕面高校は、1人1台端末を効果的に活用している。」について、教員・保護者・生徒の認識が似たようなところでポイントが落ちている印象を受けた。実際、効果的に活用できていないポイントは、どういうところか。
- ⇒現2・3年生は1年時から端末を使っていなかったのではなかなか持ってこない状況があるが、1年生は授業で頻繁に使っている。来年度の課題として、一学期当初に1回はガイダンスのようなものを実施し、全員がWeb会議システムに入ることをやる必要がある。
- 長年何10年も実施してきた自分の授業スタイルをGIGAスクール構想でどれだけ変えられるのか、一気に変えるのは困難と思われる。
- ⇒もう一つの課題として、全教員が生徒と同じ端末を所持していないので、使い慣れていない。そうすると、オンラインや学習支援クラウドサービスを活用するのに抵抗を感じてしまう。端末を個人用PCとして使うことができれば、浸透しやすくなると感じている。
- 文部科学省によると、既に1人1台以上の端末を教員に配置しているため、予算をつられないということ。しかし、スペックが古く、授業では全く使えないため、校長マネジメント予算や学校裁量予算から絞り出して、教台ずつ毎年購入している。
- 端末を上手に使いえば個別最適の学びができる。次はこの段階がこれからは来ると考えられる。その部分を考慮して、大阪府教育委員会のバックアップはないのか。現状では、学校の自助努力に任されているようだが。
- ⇒大阪府では、好事例を共有している。府のバックアップとしては、ICT指導員の巡回があるが、継続は難しいとのこと。熊本県では、ICT指導員を各校1名配置して教材作成までしているようで、羨ましいと思う。

令和4年度学校経営計画（評価）・令和5年度学校経営計画（計画）について

- 2年生の最後にキャリア意識が高まっていないと、自己実現は将来にわたって後悔するようなことも生じるとのお話を聞いた。1・2年生でキャリア意識を固めさせるような、または、社会の中で自分の活躍をイメージさせるような取組みはあるか。
- ⇒進路指導部が立てた「3年間の進路計画」がある。2年生の10月と3月に進路講演会を計画し、それが3年生になった際に最も将来のビジョンを明確にすることにつながる。
- 卒業生が進学先での学びの様子や楽しさを後輩に伝えるために、直接来てもらうことも

府立箕面高等学校

<p>重要だが、例えば全国に散らばった卒業生から必ず年1回は所定のフォームに記載してもらい、それをHPに掲載したり、生徒にプリント配付するのも良いかと思う。</p> <p>⇒阪大・神大には、卒業生が本校生を連れていくツアーを企画しており、今年からはじめて阪大の外国語学部で実現できた。一昨年には、京大の村上理事副学長から二時間程度の講演を行ってもらい、京大OBの教員によるキャンパス案内を実施した。令和5年度には、阪大・神大にも行けるようにしたい。</p> <p>○行けなかったら来てもらってというのはどうですか。</p> <p>⇒来てもらうのも交渉しているが、難しいとのこと。</p> <p>○いろいろな取り組みをやっているため、箕面高校に入学してくる子どもたちは結構、志が高いと思う。そういう子どもたちに具体的な先輩の姿を見せることは有意義である。</p> <p>○箕面高校の子どもたちは、身近な人権課題をどのように捉えているかが気になる。ところ。</p> <p>⇒生徒が常に何かしらの人権課題を感じていたりとか、それを解決したいという思いを持ちながら生活しているというところにはまだ至ってないと感じている。</p> <p>私の見立てでは、生徒は、様々な人権課題一つ一つの理解を深めるというよりも、SDGsの課題として落とし込んだ形での理解になっていると思う。社会人として、しっかりと人権意識を醸成しなければならない。諸課題に関しては、系統的に1～3年次で学習させていく。人権教育推進委員会が準備するものについては、できる限り当事者に直接話を聞く機会をつくり、その中で生徒が感じとってもらえることが大切である。</p> <p>令和5年度学校経営計画（計画）について</p> <p>○令和5年度計画案の「めざす学校像と中期的な目標について」了承をいただいた。</p> <p>○先日行われた共通テストで、一番注目したところは、とにかく分量が大幅に増えていることである。情報処理能力や多岐にわたる資料を読み解く力、総合的な力が必要である。共通テストに慣れるため、模擬試験は必要と思われるが、それだけでこれらの力をつけることは難しい。</p> <p>「チャレンジしよう、可能性を高めていこう」という意識付けのためには、高校1年生の間にいかに高い目標を持たせるかが重要である。あえて国立難関大学を強く意識するような仕掛けが必要と考えている。</p> <p>スクールミッションについて</p> <p>・教育庁に提出し、承認もしくは修正の通知を待っているところです。</p>	<p>重要だが、例えば全国に散らばった卒業生から必ず年1回は所定のフォームに記載してもらい、それをHPに掲載したり、生徒にプリント配付するのも良いかと思う。</p> <p>⇒阪大・神大には、卒業生が本校生を連れていくツアーを企画しており、今年からはじめて阪大の外国語学部で実現できた。一昨年には、京大の村上理事副学長から二時間程度の講演を行ってもらい、京大OBの教員によるキャンパス案内を実施した。令和5年度には、阪大・神大にも行けるようにしたい。</p> <p>○行けなかったら来てもらってというのはどうですか。</p> <p>⇒来てもらうのも交渉しているが、難しいとのこと。</p> <p>○いろいろな取り組みをやっているため、箕面高校に入学してくる子どもたちは結構、志が高いと思う。そういう子どもたちに具体的な先輩の姿を見せることは有意義である。</p> <p>○箕面高校の子どもたちは、身近な人権課題をどのように捉えているかが気になる。ところ。</p> <p>⇒生徒が常に何かしらの人権課題を感じていたりとか、それを解決したいという思いを持ちながら生活しているというところにはまだ至ってないと感じている。</p> <p>私の見立てでは、生徒は、様々な人権課題一つ一つの理解を深めるというよりも、SDGsの課題として落とし込んだ形での理解になっていると思う。社会人として、しっかりと人権意識を醸成しなければならない。諸課題に関しては、系統的に1～3年次で学習させていく。人権教育推進委員会が準備するものについては、できる限り当事者に直接話を聞く機会をつくり、その中で生徒が感じとってもらえることが大切である。</p> <p>令和5年度学校経営計画（計画）について</p> <p>○令和5年度計画案の「めざす学校像と中期的な目標について」了承をいただいた。</p> <p>○先日行われた共通テストで、一番注目したところは、とにかく分量が大幅に増えていることである。情報処理能力や多岐にわたる資料を読み解く力、総合的な力が必要である。共通テストに慣れるため、模擬試験は必要と思われるが、それだけでこれらの力をつけることは難しい。</p> <p>「チャレンジしよう、可能性を高めていこう」という意識付けのためには、高校1年生の間にいかに高い目標を持たせるかが重要である。あえて国立難関大学を強く意識するような仕掛けが必要と考えている。</p> <p>スクールミッションについて</p> <p>・教育庁に提出し、承認もしくは修正の通知を待っているところです。</p>
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R3年度値]	自己評価
<p>1 確かな学力と高い志を高く、すべての生徒の第一志望進路の実現を図る</p>	<p>(1) 生徒の学習意欲の向上、確かな学力の育成 ア 学習習慣の定着。 イ 基礎的・汎用的能力の育成。</p> <p>ウ 授業満足度の向上。</p> <p>エ 3年間を見通した学習指導及び進路指導計画の活用。</p> <p>(2) 授業改善及び希望する進路を切り拓く学力の育成。 ア 授業アンケート結果等の活用。授業改善。 イ 希望する進路実現に相応しい学力の養成。 ウ 国公立大学への進学実績の伸長。</p>	<p>(1) ア・学習指導室を中心に、予習・復習が必要となる授業デザインの設計に取組み、一日の宿題量を調整することで家庭学習の定着をはかる。</p> <p>ウ・学習指導室を中心に、授業アンケート(7,12月)の課題把握と成果検証、授業見学における管理職の教員へのフィードバックを更に充実し、授業改善に結びつける。</p> <p>エ・3年間を見通した学習指導及び進路指導計画を活用する。</p> <p>(2) ア・授業アンケート結果等を参考に、自己・教科の振り返りを行い、授業改善に努める。 ・授業の「めあて」と「生徒の学習活動」、「振り返り」を全教科で実践し、「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざした授業改善を推進する。</p> <p>イ・先進校視察、外部講師による講習会の参加、校内外の優れた実践事例の研修等を通し、指導法を研究し、共有する。</p> <p>ウ・地方国立大学等の情報を生徒・保護者に発信する。</p>	<p>(1) ア・第1・2学年で実施している学力生活実態調査による平均家庭学習時間を、2年生 平日1時間30分・休日2時間、1年生 平日1時間30分・休日2時間15分とする。[54分・1時間25分/59分・1時間42分]</p> <p>ウ・生徒の学習指導評価(学校教育自己診断・設問7～11)における肯定的評価を90%以上とする。[88%]</p> <p>エ・「将来の進路や生き方について考える機会がある。」「進路に関して丁寧に指導をしてくれる。」の肯定的評価 95%/90%以上 [94%/89%]。</p> <p>(2) ア・授業満足度 80%以上 [78%]。 ・先進校視察・研修、専門書読書会等での学びを全体にフィードバックする機会を年7回実施する [6回]。</p> <p>イ・希望する進路の実現達成率 80%以上 [52%]</p> <p>ウ・国公立大学合格者を63名以上とする [61名]。 ・国公立大学理系学部のラボ見学を2回以上実施する。[新規]</p>	<p>(1) ア・平均家庭学習時間は、2年生 平日1時間2分・休日1時間40分、1年生 平日55分・休日1時間33分、目標に達していない(△) 学習指導室を中心に推進している箕高授業スタイル(授業の「めあて」の提示・「生徒の学習活動」・「振り返り」・自学自習)、とりわけ「自学自習」の充実に取組むことで改善を図る。</p> <p>ウ・肯定的評価は87.6で目標に達していない。(△) コロナ禍、変則的な時間割変更の連続等のため、見通しを持つことが難しく、教員が授業進度等を意識せざるを得ない現状もあり、授業進度が比較的速くなった面があることが考えられる。</p> <p>エ・「将来の進路や生き方について考える機会がある。」「進路に関して丁寧に指導をしてくれる。」の肯定的評価 91%/88%で目標に達していない。(△) 多彩な進路講演会や進路HRを実施している一方、学年やクラス全体に働きかける面が多く、生徒との個別面談の時間確保に課題がある。</p> <p>(2) ア・授業満足度 74%で目標に達していない。(△) 令和4年度は「理論」の研修を主に実施したので、令和5年度には「実践」を中心とした研修を実施することで改善を図る。</p> <p>イ・44%。[52%]</p> <p>ウ・29名。[61名]</p> <p>・0回で目標に達していない。(△) 京都大学訪問(1年生～3年生対象)、神戸大学(2年生対象)、大阪公立大学ラボ見学(3年生対象)、関西大学(3年生対象)を計画したが、コロナ禍見学の受け入れは難しかった面がある。</p>

府立箕面高等学校

	<p>エ 海外大学進学をめざす生徒支援。</p> <p>オ 保護者との連携</p>	<p>エ・海外大学進学説明会をより充実させ、国内外の関係機関との連携を深め海外大学への進学をめざす生徒を支援する。</p> <p>オ・進路・学習状況を保護者に適切に提供する。</p>	<p>エ・海外大学進学希望者対象説明会を年間6回以上開催の継続、海外大学交流会2回は府立学校への公開実施〔6回・2回〕。</p> <p>・海外大学進学希望者に対する合格者の合格率を80%以上とする〔 %〕。【7月末に確定】</p> <p>オ・自己診断（保護者）「進路指導面で、学校は家庭への連絡や意思疎通を、きめ細かく行っている」「学習の内容や進捗等を懇談や通信などによって知ることができる」の肯定的評価65%/62%以上とする。〔62%/59%〕。</p>	<p>エ・大阪府立学校の生徒・保護者、教員対象、本校海卒業生・教員による「海外大学進学説明会」を、7月7日、12月22日に対面及びWeb会議システムで実施、参加者の満足度は100%。海外進学説明会を11月までに6回実施、アメリカ合衆国、イギリスを中心にヨーロッパの進学事情の説明など内容の充実も図られ平均満足度は93%。取組みは随時ホームページで情報発信し、閲覧数も600以上で目標以上（◎）</p> <p>・海外大学への進学合格率 【7月末に確定】</p> <p>オ・それぞれ65%・63%で概ね達成。（○）更なる保護者連携に努める。</p>
<p>2 あらゆる教育活動で「21世紀型スキル」発現の機会をつくり、生徒の主体性・資質・能力を育成する</p>	<p>(1) 生徒の言語活動の充実を図る。 アイ 卓越した英語力をはぐくむ。</p> <p>(2) デザイン思考ができる生徒の育成。 ア 「探究学習」を主体的・対話的で深い学びの実現につなげる。</p> <p>イ 「探究学習」の思考法の授業への導入。</p> <p>ウ 海外研修や修学旅行の取組みでデザイン思考をはぐくむ。</p> <p>エ ICTの推進。</p> <p>オ 教科の枠を超えた学びの創造・実践。</p> <p>(3) 多様性への理解・共感力をはぐくむ。 ア 異なる文化・価値観への共感力の向上。</p> <p>イ 英語教育や国際化教育の機会の充実。</p>	<p>(1) ア・広がる英語教育推進プロジェクトと教科内相互授業見学による研鑽より4技能教授スキルと授業プロセス改善に取り組む。MINOH ENGLISH VILLAGEを継続する。 イ・国際グループを中心に、統合的な英語評価(CEFR)を行い、その現状分析と課題の把握を継続し、今後の方向性と課題解決策の策定作業を英語科とともに取り組む。</p> <p>(2) 「学校経営推進費」事業を活用し、クリエイティブな環境でデザイン思考を育成するプロジェクトを実施する。 ア・SDGsの視点も踏まえた「総合的な探究の時間(Link)」の充実。フィールドワーク、大学生・院生等のTAも活用する。</p> <p>イオ・ディプロマポリシーを踏まえたカリキュラムポリシーの策定、「関連単元配列表」の有効活用で、更なるカリキュラムマネジメント及び観点別学習状況の評価の充実をめざし、教科の枠を超えた学びを創造し実践する。</p> <p>ウ・海外研修や修学旅行の目的・企画・実施については、学校経営計画を踏まえた取組みとする。</p> <p>エ・授業にICTを効果的に取り入れ、生徒の学びの深化を図る。</p> <p>(3) ア・大阪大学・立命館大学いばらきキャンパス他の留学生との交流会を企画・立案・実施し、異なる文化・価値観への共感力と英語コミュニケーション能力の向上を図る。</p> <p>イ・夏期海外研修、海外大学説明会・交流会、スタディツアーなどで英語教育や国際化教育の機会を充実させる。</p>	<p>(1) アイ・グローバル科2年生のCEFR B1以上:65%以上/B2以上:10%以上とする〔61%/6%〕。・普通科2年生のCEFR A2以上:98%以上/B1以上:30%以上とする〔67%/27%〕。</p> <p>・海外大学進学者は、TOEFLiBT72以上、IELTS5.5以上をめざす。</p> <p>(2) ア・「総合的な探究の時間(Link)」の公开发表会を年5回以上実施する〔5回〕。</p> <p>イオ・先進校視察、学識経験者による研修を通じて、「総合的な探究の時間」、教科における「探究的学習」とその形成的評価、教科の枠を超えた学びについての知見・実践力を向上させるための研修3回以上〔3回〕。</p> <p>ウ・海外研修については事前研修を充実させ、実施後の成果発表を文化祭で行い、学校全体や社会に開かれた活動とする。</p> <p>エ・オンライン学習企画委員会によるICT活用に向けた校内研修・相互研究授業20回以上の維持〔23回〕</p> <p>(3) ア・留学生との交流会・キャンパスツアーを実施。自己診断「国際交流の取組みが充実」(生徒) 肯定的評価を90%とする。〔87%〕</p> <p>イ・学識経験者・大学院生・留学生等のTAも活用し、プロジェクトベースの学習活動、アントレプレナーシップ研修等、国内で海外研修と同等のプログラムを実施する。自己診断「英語教育が充実している」(生徒)、「他の学校にない特色がある」(生徒)の肯定的評価をそれぞれ86%/95%とする。〔84%/93%〕</p>	<p>(1) アイ・グローバル科2年生のCEFR B1以上:81%/B2以上:0%(△) 普通科2年生のCEFR A2以上:96%/B1以上:33%(○) 【2月中旬に確定】 ・今年度、海外大学進学希望者のうち、IELTS 5.5以上を有している生徒は、3年生1名、2年生1名、計2名で概ね達成。(○) (2) ア・「総合的な探究の時間(Link)」公开发表会年5回実施で概ね達成。(○) 感染症対策のため、保護者の入場は叶わなかったが、高大連携の観点より、大阪成蹊大学と連携協力することができた。</p> <p>イオ・5回実施で目標以上(◎) 2/15 福岡市立福岡西陵高等学校・茨城県立竹園高等学校の視察報告研修会を含めて5回。</p> <p>ウ・海外研修は今年も実施できなかった。国内でも英語4技能をフル活用できる研修プログラムとして「体験型英語学習施設での研修」「エンパワメントプログラム」を夏期休業中に実施、満足度はそれぞれ97%・98%であった。更に、1年生グローバル科全生徒に対して9月10日(土)に、グローバル体験プログラムを実施、満足度は97%であった。コロナ禍実現可能で最適なプログラムを実施できた。(◎)</p> <p>エ・オンライン学習企画委員会によるICT活用に向けた校内研修や相互研究授業はミニ研修を含め25回で目標以上(◎)</p> <p>(3) ア・肯定的評価は89%で目標に達していない(△) 立命館大学キャンパスツアーで留学生との交流を行った。令和5年度は、コロナ禍で実現できなかった大阪大学・関西学院大学の留学生との交流会・キャンパスツアーを実施した。</p> <p>イ・それぞれ90%・93%で概ね達成。(○)。グローバル科「創造英語」の授業に20回大阪大学の留学生にTAとして入っていただいた。令和5年度は取組みを全校に拡げる。</p>

府立箕面高等学校

<p>3 「自主自律」「和親協力」の心をはぐくみ、豊かな人間性を涵養する学校づくり</p>	<p>(1) 安全で安心な学びに向かう環境づくりの推進。 ア 生徒が相談しやすい環境づくりの促進。</p> <p>イ いじめの未然防止、早期発見、組織的対応。</p> <p>ウ 実行性のある危機管理体制の確立。</p> <p>エ 食物アレルギー等に係る事故防止。</p> <p>オ 新型コロナ対応。</p> <p>(2) 生徒主体の部活動・行事の運営と学習との両立。 ア 生活習慣の定着。</p> <p>イ 自主的な活動の推進。 ウ 教職員の働き方改革をふまえた生徒の自主活動や部活動の実現。</p> <p>(3) イ 情報発信の充実。</p>	<p>(1) 3年間の人権教育推進計画に基づき、講演・研修を通して生徒・教職員の人権意識・行動変容を高める。 ア・教員とSCの協力のもと、全教職員で教育相談を充実させ、生徒が相談しやすい環境づくりを促進する。</p> <p>イ・いじめを根絶すべき最重要課題と認識し、未然防止、早期発見、早期発見に組織的に取り組む。</p> <p>ウ・実効性のあるマニュアルとなるよう点検・見直しを行い、自然災害等に備えた体制の確立を図る。</p> <p>エ・食物アレルギーの事故は、いつ、どこでも起きるものと想定し、すべての教職員が緊急時に対応できるよう、校内研修等の充実を図る。 オ・④引き続き、朝の健康観察時間の大切さを考えさせるよう働きかけ、4観点に即した取組みを実践する。</p> <p>(2) ア・③教員と生徒会の協力による生活規律の改善。生徒会を中心とし、生徒主体の部活動・行事運営に関して、より発展的でシステム化された取組みを検討する。</p> <p>⑤イウ・「大阪府部活動の在り方に関する方針」に沿い、学習と部活のバランス及び教員の働き方と生徒の活動のバランスをとりながら成果をあげる。</p> <p>(3) イ・ホームページによる組織的な情報発信及び地域や教育産業等を通じた学校説明会を実施するなど、情報発信を丁寧かつ継続的に行う。</p>	<p>(1) ア・学校独自のSC相談を10回確保するとともに、定期的な相談室開放(教育相談支援委員が担当)について更なる周知に努め、自己診断「教育相談」(生徒)の「肯定的評価」70%以上 [68%]。</p> <p>イ・自己診断「いじめ対応」(生徒)の「肯定的評価」90%以上 [89%]。</p> <p>ウ・自己診断「災害時の情報提供」(生徒)の「肯定的評価」67%以上 [56%]。</p> <p>エ・食物アレルギー対応委員会を中心に、校内研修を年2回実施し、食物アレルギー等に係る事故防止に努める。[2回]</p> <p>オ・②自己診断「命の大切さや社会のルール等について学ぶ機会がある」(生徒)、「人権について学ぶ機会がある」(生徒)の肯定的評価をそれぞれ85%/92%とする。[83%/90%]</p> <p>(2) ア・③④遅刻者数 4500名以下をめざす [7440名]。</p> <p>・自己診断における「生徒会を中心とした自主的な活動が発達している」(生徒)の「肯定的評価」92%以上 [91%]。</p> <p>イウ・自己診断「生徒会活動の活性化に工夫」(教員)の「肯定的評価」90%以上 [88%]。</p> <p>(3) イ・HP更新回数200回以上の継続。地域や教育産業を通じた学校説明会の16回以上実施を継続する [247回/16回]。</p> <p>・自己診断「ホームページを見ている」(保護者/生徒)の「肯定的評価」70%/55%以上 [60%/45%]。</p>	<p>(1) ア・学校独自のSC相談を23回実施。毎回生徒・保護者のコマがすべて埋まり、相談後、必要に応じてケース会議を実施している。更に、定期的な相談室開放(教育相談支援委員が担当)も実施し、「教育相談」(生徒)の肯定的評価72%、目標以上。(◎)</p> <p>イ・自己診断「いじめ対応」(生徒)の肯定感89%で目標に達していない(△)</p> <p>ウ・自己診断「災害時の情報提供」(生徒)の肯定感60%で目標に達していない。(△) コロナ禍で通常の避難訓練が出来なかったことによると考えられる。</p> <p>エ・2回実施した。(○)</p> <p>オ・それぞれ80%、86%で目標に達していない。(△) 人権関連の講演は実施しているものの、カリキュラムマネジメントの視点において、ホームルームや全教科科目での人権に関する学びの工夫を要する面がある。</p> <p>(2) ア・遅刻者は6489名で目標に達していない。(△) 昨年度7440名よりは改善できたが、達成には至らなかった。遅刻をさせない授業づくりに取り組むことで改善を図る。</p> <p>・90%で目標に達していない。(△) コロナ禍、平常時より制限があったことが要因として考えられる。</p> <p>イウ・91%で、目標以上。(◎)</p> <p>(3) イ・HP更新回数は304回、説明会は21回で目標以上。(◎)。</p> <p>・62%・46%と目標に達していない。(△) 公式SNSを開設したので、ホームページとのリンクを検討する。</p>
<p>4 教職員の資質向上と学校の組織力向上に向けた取組み</p>	<p>(1) 教科会議・相互授業見学の充実・経験年数の少ない教員研修の充実、学校組織力の向上。</p> <p>(2) 「働き方改革」の推進。</p> <p>(3) 開かれた学校づくり。 イ 学校説明会・見学会、学校情報発信の充実。</p> <p>ウ 地域と連携した事業の展開、地域とともに成長する学校づくり。</p>	<p>(1) 教科会議を授業力向上及び生徒の希望する進路実現のための研修の場として位置付けるとともに、積極的に研究授業を行うことで、教科としての授業力向上を図る。</p> <p>・テーマを立てた相互授業見学や外部の教員研修・講習会に参加する等、教員の授業力向上を図る。</p> <p>・個々の教職員の経験年数や適性に応じた役割分担を行うことで、チーム箕面・オール箕面で学校運営を推進する。</p> <p>(2) 安全衛生委員会と連携し、教職員の安全及び健康の保持、ならびに快適な職場環境の整備・促進に努める。</p> <p>(3) イ・学校説明会・見学会の積極的実施及び本校ホームページを活用した最新の学校情報の発信に努める。</p> <p>ウ・地域と連携した事業の展開を図り、地域とともに成長する学校をめざす。</p>	<p>(1) 自己診断「各教科において、指導方法の工夫・改善に努めている」の「肯定的評価」92%以上 [91%]。</p> <p>・全教科で研究授業年1回以上を維持 [1回]。</p> <p>・相互授業見学教員一人当たり平均3回以上 [3回]。</p> <p>・自己診断「教職員間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている。」肯定的評価83%以上 [82%]。</p> <p>(2) ストレスチェックによる「健康総合リスク」の値を、府立学校平均以下を継続する [88]。</p> <p>・自己診断「気軽に相談しあえる人間関係ができてきている」の「肯定的評価」80%以上 [76%]。</p> <p>(3) イ・HP更新回数の100回以上の継続 ・本校学校説明会・見学会のべ参加者を3200名以上とする [3156名]。 ・HPのアクセス数を120,000以上とする [110,274]。</p> <p>ウ・⑥箕面市立中学校への出前授業2回以上、箕面市の行事への参加・貢献3回以上行い、箕面市への連携・貢献を深める。</p>	<p>(1) 自己診断「各教科において、指導方法の工夫・改善に努めている」の「肯定的評価」91%で、目標に達していない。(△) 令和4年度は「理論」の研修を主に実施したので、令和5年度には「実践」を中心とした研修を実施することで指導方法の改善を図る。 ・全教科で研究授業年1回。(○)</p> <p>・相互授業見学教員一人当たり平均3回。(○) ・自己診断「教職員間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている。」肯定的評価78%で、目標に達していない。(△) 高い同僚性を維持しながら、働き方改革や育児休業取得の推進を進めている一方、制度整備が追いついていない面もあり、一部の職員に業務負担があった面がある。</p> <p>(2) ストレスチェックによる健康総合リスクは91(教育庁98)で更なるリスクの軽減は図れなかったが、平均以下を継続した。(○) ・自己診断「気軽に相談しあえる人間関係ができてきている」の「肯定的評価」83%で目標以上。(◎)</p> <p>(3) イ・学校ホームページの随時更新に努め、本校の多様な取組みを中学生・保護者、中学校教員に積極的に発信し、保護者・生徒に学校情報をタイムリーに提供した。 ・それぞれ、HP更新回数304回、学校説明会・見学会のべ参加者3,148、アクセス数191,767回、で、いずれも計画以上。(◎)</p> <p>ウ・地元箕面市との連携を深めていけるよう努めた。箕面市立中学校への出前授業2回、箕面市の行事への参加・貢献10回で、計画以上。(◎)</p>